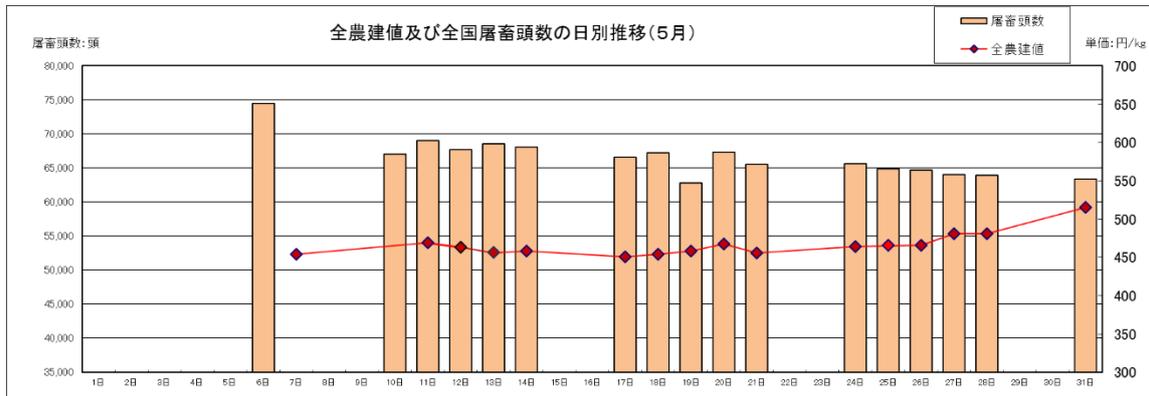


# 肉豚インフォメーション（5月）

## 【全農建値】

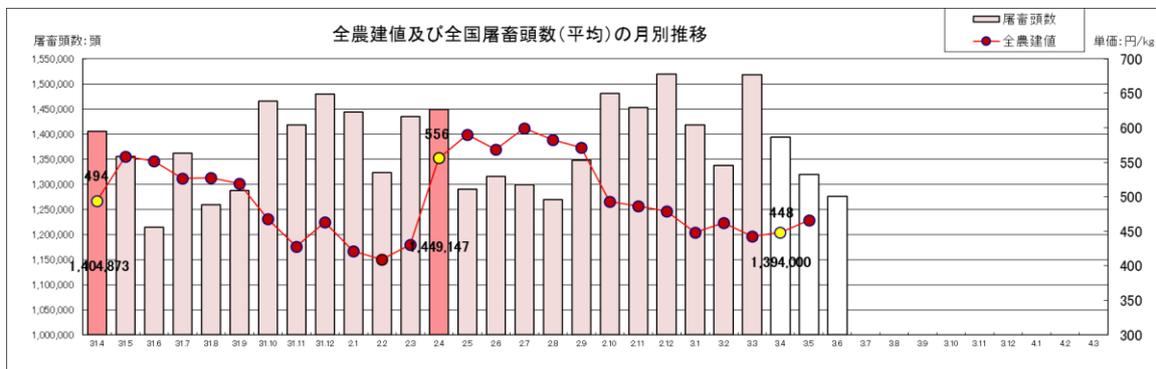
2021年5月（税抜）	2020年5月（税抜）
466円/kg（124円安）	590円/kg

5月は、連休明けの補充買いも見られずまた6万5千頭前後の安定した出荷が下旬まで続いたこともあり、相場は概ね460円前後で推移し例年に比べて低調な相場展開となった。月末に出荷頭数の減少に伴い相場を押し上げた。



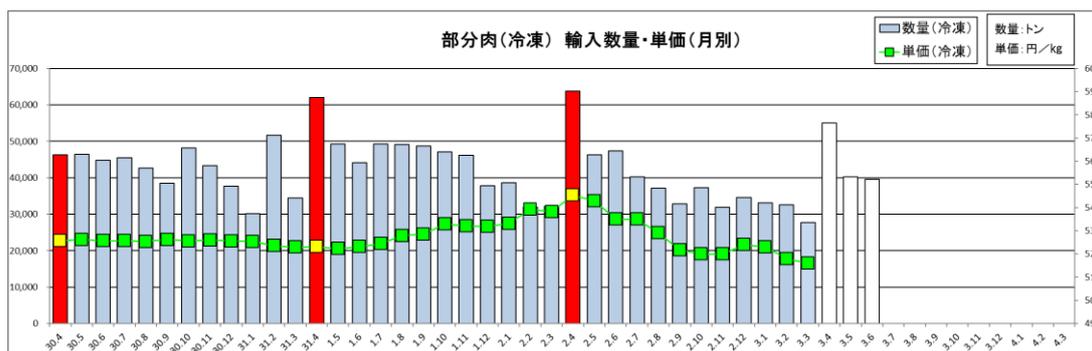
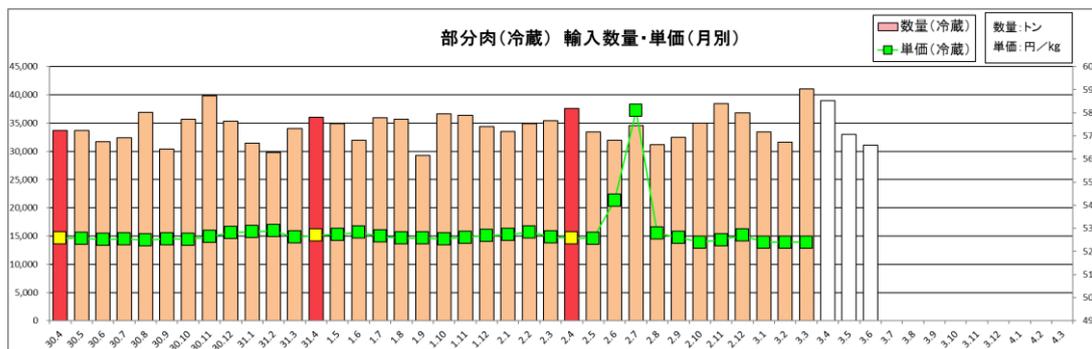
## 6月以降の動向

出荷頭数は、6月は前年同月をやや下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、飼料価格の高騰やアジア諸国を中心とした買い付けによる現地価格高騰の影響により、5月、6月ともに前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期と同水準となると予測する。冷蔵品輸入量は、冷蔵品と同様の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少等から、5月はかなり大きく、6月は大幅に、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

（ALIC 豚肉の需給予測について 5月27日）



緊急事態宣言が9都道府県を対象に今月20日まで延長することが決定した。今回は酒類提供の自粛要請も出ており、外食需要の低迷は続く見通し。引続き家庭内消費の需要はあるものの、相場への影響は限定的となりそう。

一方で、いち早く経済の正常化が進んだ中国やワクチン接種が先行する欧米の消費活動の回復の兆しが見え始めたことから、世界的に食肉需要が高まっており輸入豚肉の現地相場を押し上げている。今後こうした背景から飲食店や小売店で輸入豚肉から国産豚肉に切り替えることも予想され相場の押し上げ要因となりそうだ。

また6月の出荷頭数は前年をやや下回る(前年同月比4%減)と予測されていることから、出荷頭数の減少とともに相場も高値圏で推移すると思われる。

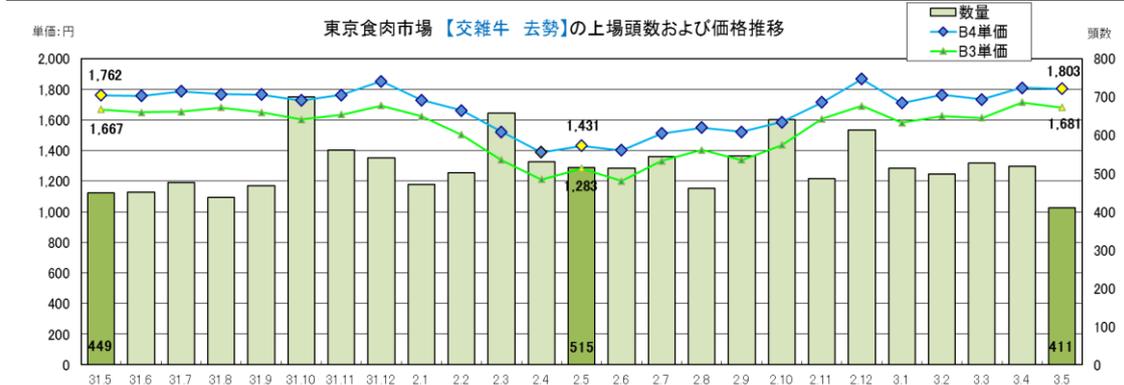
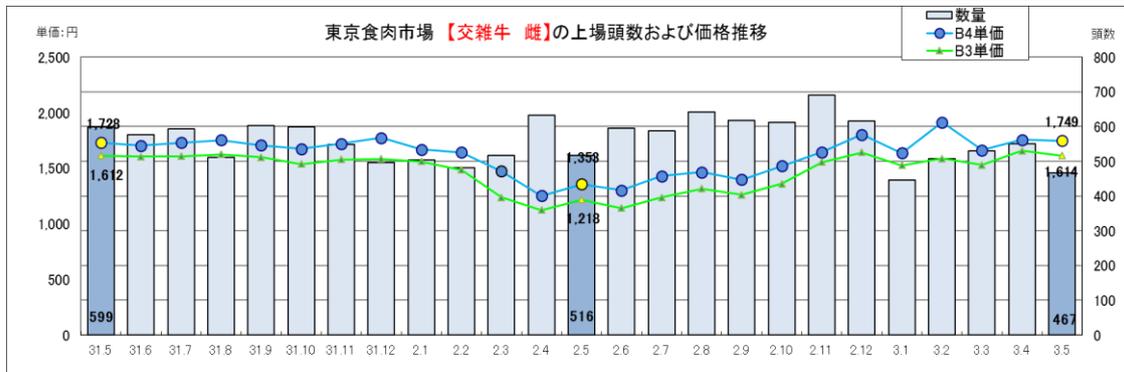
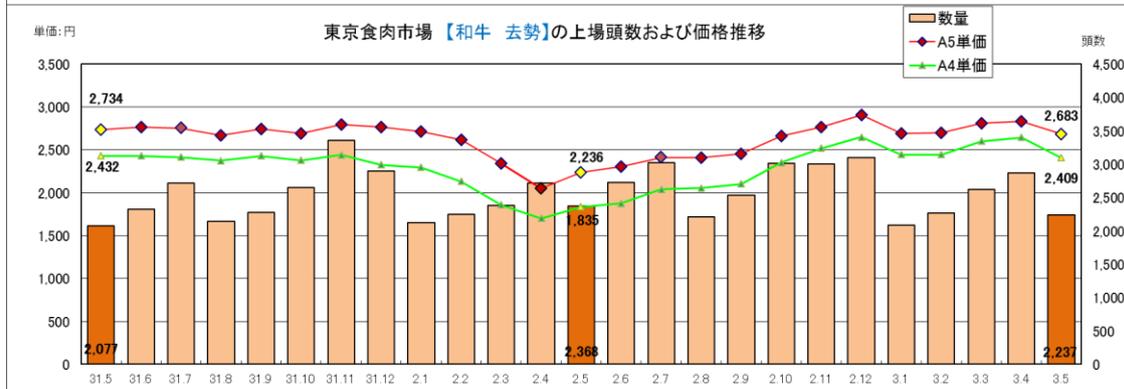
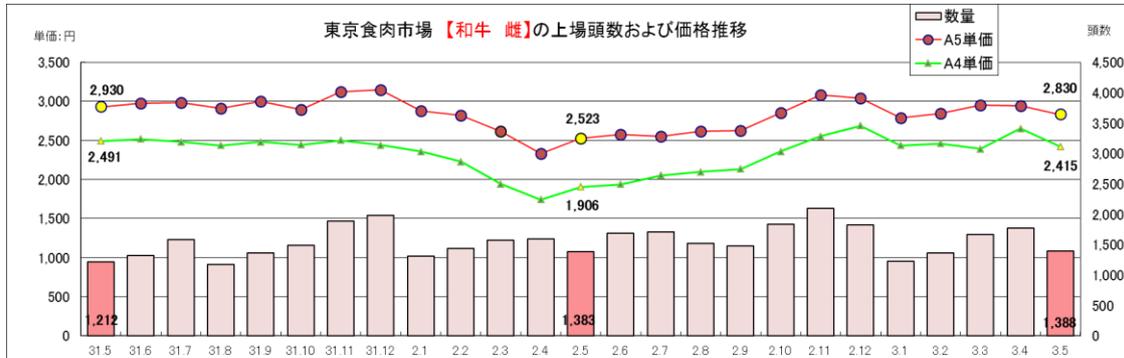
6月の相場は高値安定で推移する見通し。

全農建値(税抜) 予測レンジは550円~630円とする。

# 肉牛インフォメーション（5月）

## ● 5月の動向

枝肉相場は、政府の冷凍保管事業や堅調な輸出などに下支えされ、月中旬まではまずまずの相場展開となった。後半からは酒類提供禁止等による外食店の停滞に加えて、量販店の引き合いが弱まってきたこと等により全体的に下落した。



## ● 6月の動向予測

緊急事態宣言の延長が決定したことから外食需要の回復は期待できないが、冷凍保管事業等が下支えしていることから、相場は5月より下がるもののある程度維持すると見込む。

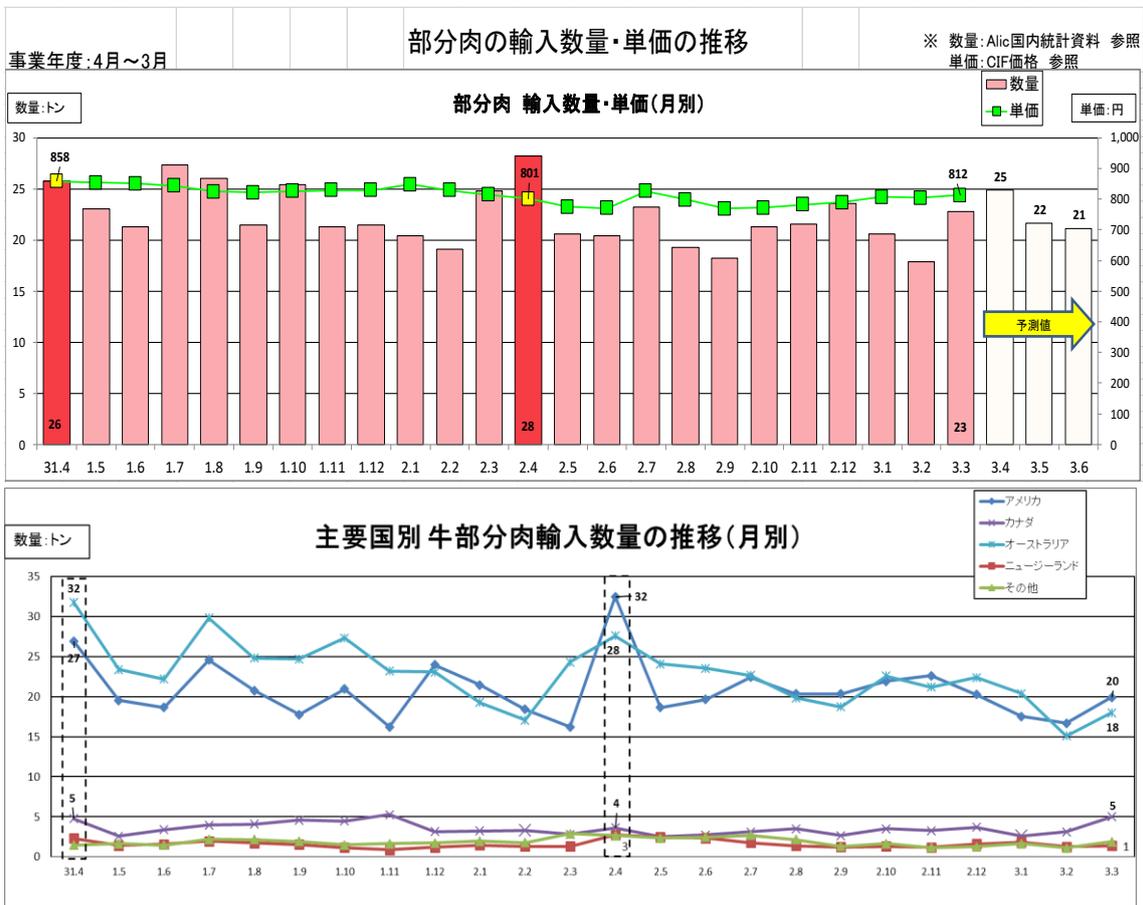
6月相場は「弱もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2600 円 (税込み)      A4 等級 2400 円 (税込み)

交雑去勢 B4 等級 1800 円 (税込み)      B3 等級 1650 円 (税込み)

## ● 輸入牛肉

牛肉（部分肉）輸入量について、冷蔵品は、前年の輸入量が北米現地工場の稼働停止により少なかったことから、5月、6月ともに前年同月をやや上回ると予測。冷凍品は、北米からの入船遅れに加え、豪州及び米国における現地価格の高騰等により、5月、6月ともに前年同月をかなり大きく下回ると予測。（ALIC 牛肉の需給予測について 5月27日）



## ● 消費動向

緊急事態宣言延長により外食業態や行楽による需要回復は期待できず、引き続き家庭内消費が中心となる。乳牛は輸入牛の品薄が影響し、モモ、バラの需要が高く、ロース、ヒレの引き合いも強い様子。和牛と交雑牛は、ともに相場の落ち着きをみせるが、部分肉相場や引き合いは大きく変わらないと予想。月下旬の父の日に向けた肉フェアやオリンピックの開催が決定する等によっては荷が動き出すと期待できる。

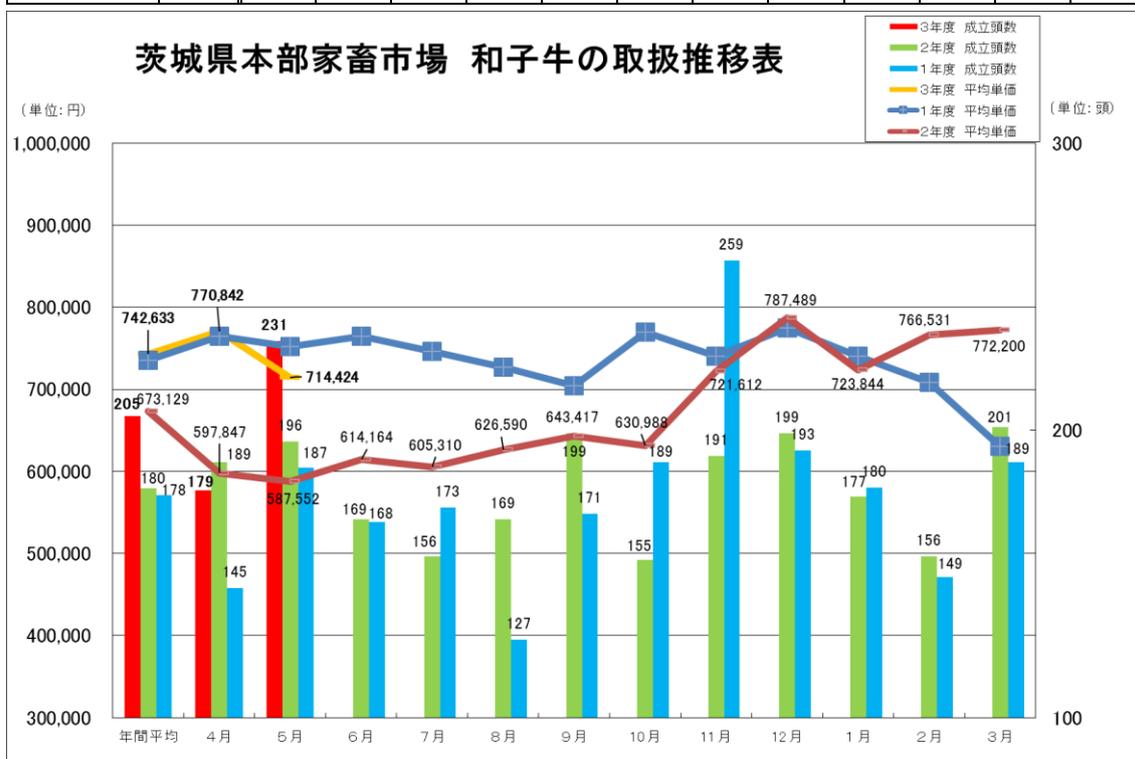
●全農茨城県本部家畜市場動向

全農茨城県本部家畜市場における素牛平均価格（5月税込）は、黒毛和種の雌は609,771円で前月比▲85,040と下落、去勢は780,016円で前月比▲55,099円と下落した。上場頭数（成立）は231頭で前月比+52頭となった。次回上場頭数は184頭を予定。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度 平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	742,633	770,842	714,424										
去勢	807,566	835,115	780,016										
雌	652,291	694,811	609,771										
1年度 成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度 成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	205	179	231										



# 食肉インフォメーション（5月）

日本フードサービス協会の発表によると、4月の外食売上高は前年同月比 36.7%増と 2020年2月以降初のプラスとなった。3度目の緊急事態宣言が解除され市中への人出があったことも一因ではあるが、昨年4月の1度目の緊急事態宣言との対比からの数字となっている。日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の3月の販売統計速報によると、既存店ベースでの畜産部門の売上高は1,126億円（前年同月比94.7%）と前年同月を下回り、前年との比較では小売りと外食が対照的な結果となった。

## ○牛肉

5月は例年、大型連休明けの節約意識が強まり、梅雨入りに向かって牛肉消費は落ち込む時期である。和牛相場も需要の鈍化を見越して下げ基調で、5月の東京食肉市場の枝肉加重平均価格は1kg 2,415円（A4、去勢）と、前月から1割近く下げの展開となっている。加えて今年は緊急事態宣言などが延長されることで、小売・外食含めて消費の弱さは一段と際立つ恐れもある。

## ○豚肉

上述の消費者の節約志向から豚肉への需要が期待される。緊急事態宣言が6月20日まで延長されることもあり、引き続きウデ、モモなどスソ物中心ではあるものの、底堅い内食需要により堅調に推移することが予想される。

## ○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和3年4月期）

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年 4月	12,570	13,288	1,156	22,930	15,336	10,361	3,699	79,340
令和3年 4月	13,863	14,375	6,743	25,681	13,870	11,951	10,042	96,525
増減	1,293	1,087	5,587	2,751	-1,466	1,590	6,343	17,185
対比	110%	108%	583%	112%	90%	115%	271%	122%

- ・令和2年4月の給食は、学校の一斉休校の影響で3月に続き取扱が大幅に減退していた。
- ・緊急事態宣言の解除を受けて、飲食店（仲卸経由含む）需要は前年より動きがあり、県本部取引先に限っては令和元年度並みの実績となった。  
※令和元年度4月比でも101%（仲卸・飲食店合算実績：35,347千円）だった。
- ・食肉専門店は取扱数量こそ前年を上回ったものの、豚肉相場の前年との価格差により金額ベースでは落ち込んだ。

※豚枝肉相場は全農建値で令和3年4月448円/kg、令和2年4月は556円/kg。